

## ◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(男性, 60歳代)あります。症状は発熱・呼吸困難・肺炎です。推定感染地域は国内で、感染経路は不明です。
- アメーバ赤痢の報告が1例(男性, 50歳代)あります。症状は、下痢・粘血便・大腸粘膜異常です。推定感染地域は国内で、感染経路は不明です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、1.80(74例)で、第8週(2月20日～2月26日)以降過去5年平均値を大きく上回っています。主に接触・飛沫により感染が広まることを踏まえ、タオル等の共用を避け、手洗い・うがいを励行してください。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は12.56(854例)で、第10週(3月5日～3月11日)以降横ばいが続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 1例(肺結核 なし, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 79例(肺結核 25例, その他結核 20例, 潜在性結核感染者 34例)うち喀痰塗抹陽性 16例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:梅毒(早期顕症, I 期) 1例(第11週追加分)【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	12.56	854
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.95	244
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.80	74
	③ 水痘	1.20	49
	④ 突発性発しん	0.32	13
	④ 流行性耳下腺炎	0.32	13
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

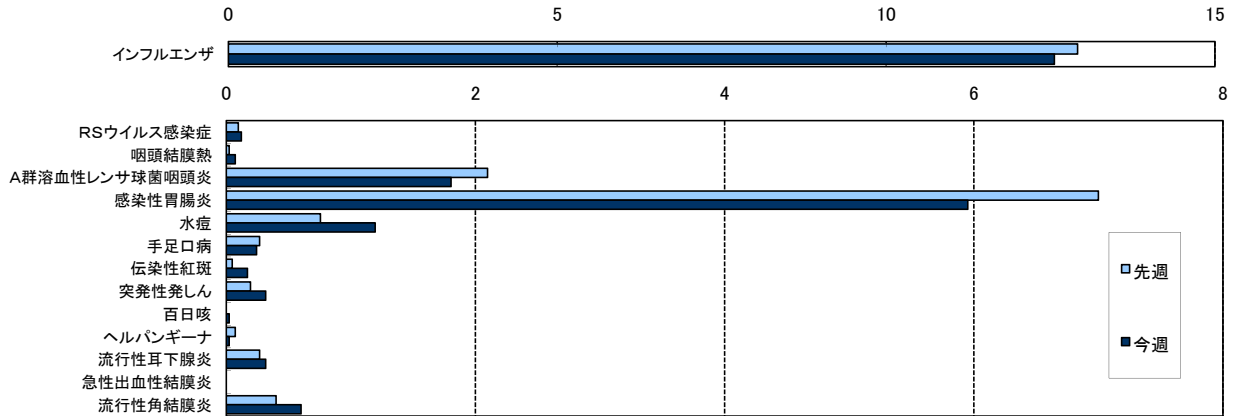
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成24年3月29日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

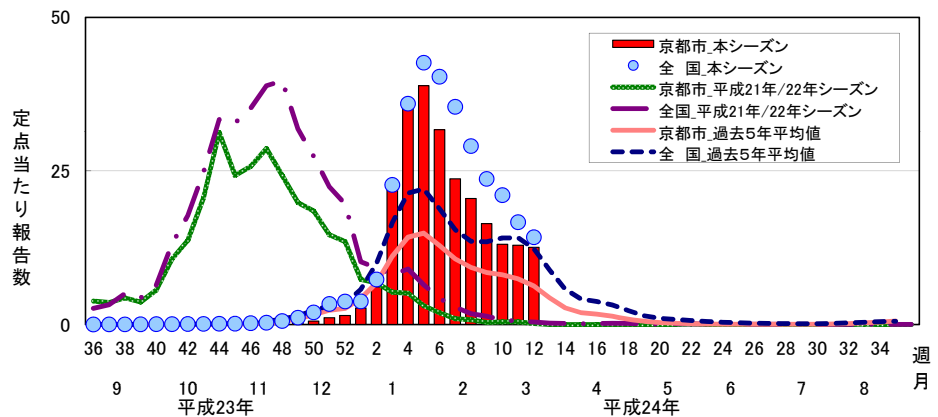
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第12週)と先週(第11週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第8週	1,334
第9週	1,068
第10週	849
第11週	878
第12週	854
累積報告数(第36週以降)	15,647

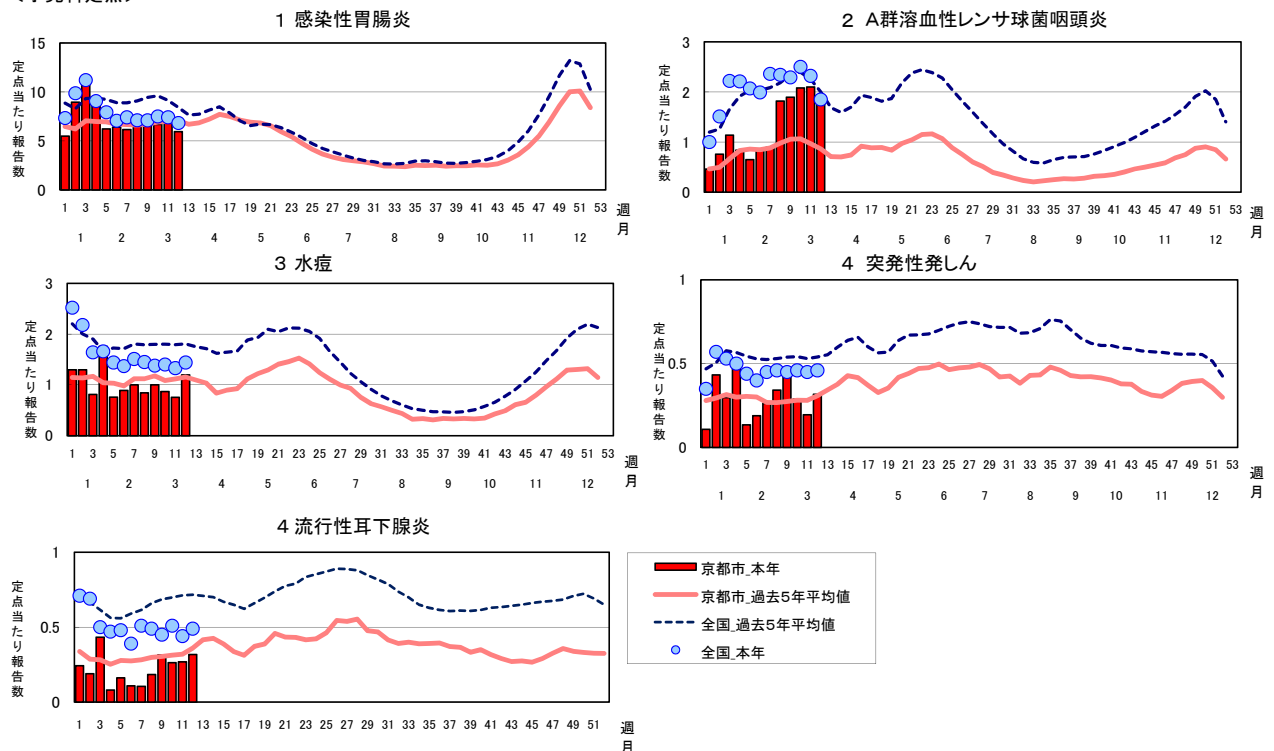


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

＜小児科定点＞



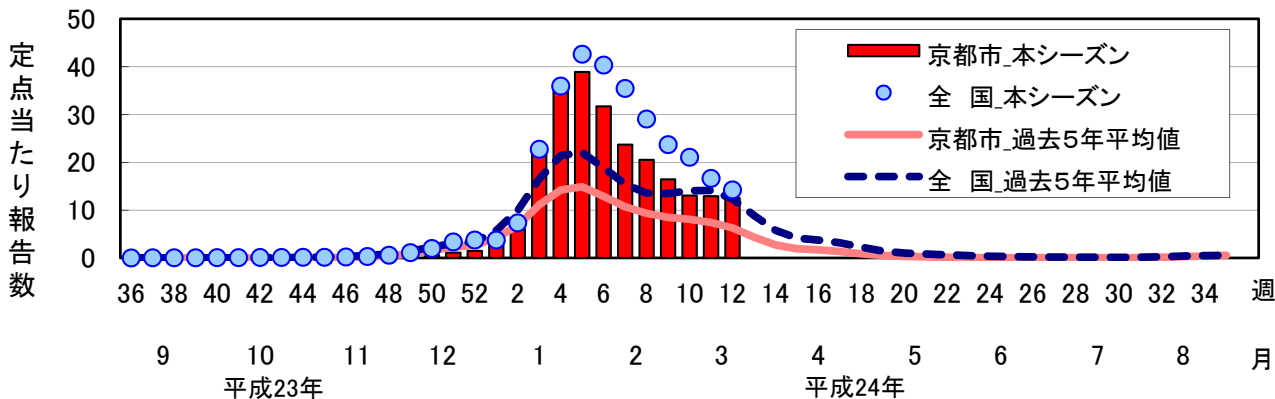
# 第12週(3月19日～3月25日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は12.56(854例)で、第10週(3月5日～3月11日)以降横ばいが続いています。

今シーズン京都市衛生環境研究所で受け付けた検体から分離されたインフルエンザウイルスは1月まではA(H3)亜型が主流でしたが、2月以降、B型が大半を占めています(平成24年4月3日現在)。

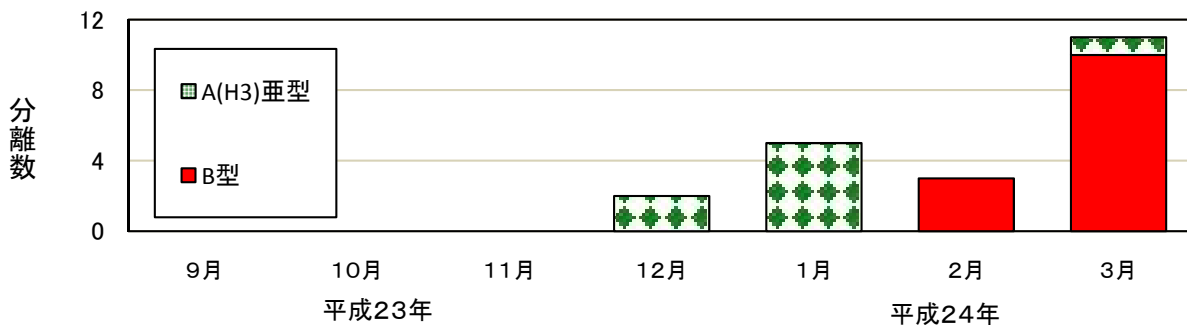
年齢群別では、第8週(2月20日～2月26日)以降、0～9歳の割合が多くなっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

京都市のインフルエンザウイルスの分離数の推移



年齢群別定点当たり報告数の推移

